

# 地域に向けた実践活動と今後の課題

小林 美 治

(千葉県財団法人復光会総武病院看護部長)

私は看護の立場から、地域に向けた実践活動と今後の課題について、1.所属施設がある船橋地域の状況について 2.総武病院の地域に向けた実践活動の状況について 3.今後の課題について の三つの視点について述べさせていただきます。

## 1. 船橋地域の状況

船橋市は東京の南部に近接し、人口54万人、昭和63年船橋市の精神障害者基礎調査によれば、船橋在住の精神障害者は約5,000人（外来通院患者約4,000人、入院者約1,000人）であり、福祉対策を必要とする精神障害回復者は約600人となっています。

現在では、精神科医療施設は4施設1,327床、各施設には精神科デイケアが併設されています。また、精神神経科のクリニックが6ヶ所開設されています。

社会復帰に関しては、船橋保健所のデイケア、小規模作業所、船橋心の福祉センター「オアシス」が機能しております。

船橋市ではノーマライゼーションの理念に基づいて精神障害者のリハビリテーションを推進し、社会経済参加を促進していくため、地域住民の理解と協力が必要となることから平成8年より市・関係団体・家族会等が連携し「精神保健福祉ボランティア養成講座」を開催しており、次第に関心も高まり効果をあげてきています。

## 2. 総武病院の地域に向けた実践活動

総武病院は昭和28年に開設、精神神経科の単科の医療施設（471床）として地域のニーズに応じて以来45年になります。近年、地域精神医療の推進を図るため外来医療の充実・精神科デイケア・訪問看護・精神保健相談等への応需体制の強化を図っています。

また、要入院治療の場合でも対象の健康上の問題、個別性、生活背景、生活の自立度等を考慮し、早期退院を目指して入院診療計画の策定、医療・看護・社会復帰計画の策定と見直し、退院指導をチームで行い、専門職種間の連携を密にし、家族の理解と協力を得るよう努めています。

当院の現況をみると急性期の患者への対応と長期入院を経て退院する群の二極化傾向が見られ、高齢者及び合併症への対応が課題となっています。

### 1) 急性期の患者へのリハビリテーション

急性期の患者の治療は、可能な限り外来通院などで支えていくが入院治療を必要とする場合でも3ヶ月以内の退院を目標に治療プログラムが組まれております。

①対象の理解と適切な治療、特に、インフォームド・コンセントにより患者への説明・同意に基づいて診療を行い、不安・苦痛の緩和を図る。薬物療法、精神療法、活動療法等で健康の回復を促進させる。

- ②診療・看護・社会復帰計画の立案・実施・評価・修正により適切な援助を目指し、患者の個別性に配慮し治療的なアプローチを行う。
- ③入院前の社会生活を維持するための環境調整を行い、健康な生活リズム、患者の自己決定能力を高める、ADL能力の向上、対人関係の改善を図る。
- ④家族の理解と協力を重視し、疾病に関する相談・助言指導、患者を支える者として家族の悩み、面会・外出泊の促進、家族の治療への参加・協力体制を重視する。
- ⑤社会生活を続けるために、対象となる人が疾病を受容し、社会資源の活用、社会経済参加の確保に向け働きかける。

## 2) 長期入院となった患者のリハビリテーション

長期入院者のリハビリテーションを進めるにあたっては、患者側の条件（病状の改善、対人関係、通院の見通し等）、受入れ側の条件（住居の確保、経済問題、環境調整等）を考慮にいれ対応する必要があります。

### ①日常生活の自立訓練

挨拶、礼儀作法、身だしなみ、清潔の保持、ADLの自立、行動の承認、指導訓練によりその人に応じて社会生活への自立を目指す。

### ②診療・看護・社会復帰計画の立案・実施・評価・修正

対象の個別性等に配慮し訓練計画・適切な援助、活動参加への動機づけを行う。

### ③自立を促す生活環境づくり

患者の関心を高める種々の活動プログラムを多種目用意し、患者の自己決定能力を尊重しながら進める。

### ④家族の理解と協力

疾病への理解、家族の不安・悩みへの理解、相談への対応、面会・外出泊の促進、家族の治療への参加・協力体制の重要性、退院に向けた準備を計画的に進める。

### ⑤地域社会での自立に向けて

社会資源の活用、困った時の相談窓口・対応の仕方、デイケア・訪問看護の活用、地域ネットワークの活用、就労の促進を図る。

## 3) 地域に向けた活動

リハビリテーション活動は、患者の入院当初から始め、患者の個別的な特性、病状の程度にも配慮しながら進めていく必要があります。当院では院内の施設を利用して行われる治療的な活動とともに地域社会の中で行われる諸活動にも患者と一緒に参加するようにしています。

### ①地域社会の資源を活用して参加できる機会をもつ

公民館での演芸大会やレガートコンサート、ポートアリーナでの病院交流会等

### ②地域自助グループへの参加

断酒会、AA東葛グループ、NA等

### ③精神保健福祉活動への参加

精神保健講演会、精神保健の集い、精神保健フォーラム等への参加

### ④社会適応の促進に向けて

ナイトケアグループ、職場訪問、社会見学、グループ旅行等

種々の活動への参加により、対象の健康的な側面が見られ、言語表現を促すことになって行動的な面を発揮し地域に向けて行動していくことが数多く見られます。

私達は対象となる人に良く説明し、合意を得て医療看護活動を推進するとともに専門職種間

の情報の共有、家族や関係機関と密接に連携しその人なりの生活が地域社会においてできることを目指していきたいと思います。

### 3. 今後の課題

精神障害者が社会に参加していくためには、住むところ、働くところ、支えてくれる組織等は重要なことといえます。

船橋市精神保健福祉推進協議会では市内を4つの地域に分け、各地域の精神障害者の多様な福祉・医療の要望に応えられるような対策がとられることを望んでおります。授産施設・生活訓練施設・福祉ホーム・グループホーム・小規模作業所等が関係機関・市民の理解と協力により設置できるようにしたいと念願しています。

また、セルフヘルプグループへの関わりについても積極的に関心に向け協力していきたいと考えております。